

ぶなとれ

田富中第2学年 学年通信

～青学年全員の挑戦譚～

22.10.7(Fri)

気づける、大事な事

文責：佐野 亮祐 ②

動けば変わるんです。

授業・日常生活・時間を大切に



新人大会に向けて力を合わせて頑張ります！！

何気ないことの積み重ねが、日常の力を高める。

皆さんは、下校時に何か気がつきませんか？みんなが朝、下駄箱に入れた靴が揃っていることに。不思議なもので、気持ちが乱れていたり、嫌なことがあったりした時は、なぜか下駄箱の靴が揃っていないことがあるのです。そんな靴の様子見ながら小林Tや太田T、小池Tが毎日揃えてくれています。みんなは下駄箱の靴の整頓と心の関係を考えたことがありますか。

「はきものをそろえる」ことは、自分のことを落ち着いて見つめたり、考えたりしながら行動できることにつながるものと考えています。ちょっとした積み重ねが心を整え、ひいては学習や生活全般にわたり、安定した力を発揮できるようになります。私は田富中が当たり前のことが当たり前にできる学校であってほしいと思っています。日頃が大切。ちょっとしたことの積み重ねが大切。自分を整え、自分の力を高めてほしいと思います。まずは自分の下駄箱をのぞいてみてください。

何かをしたい者は手段を見つめ、何もしたくない者は言い訳を見つめる。

気づき、考え、行動する②

新リーダーたちの頑張りの。…自分がすべきことは何だろう？

“気づき、考え、行動する”。10月の目標である。新リーダーたちが授業開始3分前に廊下で呼びかけをしている。新人戦に向けて時間を守ろう、授業を大切にしようと呼びかけをしているのだ。声掛けメンバーは新部長、後期評議会、生徒会立候補予定者、そして前期評議会である。その声掛けメンバーに自ら参加してくれる仲間も出てきた。さらには教室から離れている仲間を呼びに行き、連れてきてくれる仲間も出てきた。ステキな光景。「そんなことしなくても自分で時間を見て動けよ！中学生にもなってみっともない！」と思う人もいるだろう。確かにそうだ。でもね、大事なことは『できる人だけでやろうとしないこと』だと思う。だって、みんな学年の仲間じゃん。だからみんなでできなきゃ、みんなでやれなきゃ意味がないんだ。それを青雲祭の取り組みを通して、3年生に教えてもらったんだ。

さて、私はラグビーの仕事に携わっている。高校の先生と一緒に仕事をすることも多い。その中で高校の先生に聞いてみたいことがあった。それは、「高校の部活動で何を重視しているか」ということだ。公立や私立の違いはあれど、義務教育ではない高校で大切にしていることを聞きたかった。その中で出てきた言葉が“気づき、考え、行動する”だった。その先生が仰っていたこと。「誰かが両手に重い物を持っていて、『持ちましょうか？』とか『持ちます！』と言えない人、それにすら気づけない人がグラウンドや体育館で良いパフォーマンスなんかできない。」と。「だからこそ、小学生にも言うことかもしれないけれど、“気づき、考え、行動する”が大事なんだ。」と。そしてその先生の学校では部員たちに3つのことを徹底するように言い続けているようだ。①集団のリーダーになること、②授業中に発言すること、③掃除を一生懸命すること、の3つだ。①リーダーになることで、周りを見なければならぬ。その立場が責任感を生み、やるべきことが明確になり、ちょっとした変化にも気付けるようになる、と。②授業で先生が何を問うているのかに気付ければダメだ。そしてそれに対する反応（アウトプット）ができなければ聞いていないのと一緒に、話が聞けない人に名選手はいない、と。③目の前にある汚い部分を黙々とキレイにできない人に何ができるんだ、と。そのラグビー部には「重い物、遠くにある物、汚い物を誰よりも素早く動いて片付ける」というルールがあるようです。これも「気づく」ことがまず大事なんだ、と。そして、話の最後に「勝つことだけを追い求めたり、技術に走ったらダメだぞ。そんなことは長続きしないから。」と話してくれました。貴重なお話を聞くことができました。

新リーダーたちが青学年をきっかけに学校全体を良くしたい！そんな想いにあふれた活動を今行っています。「あなた」にできることはたくさんあるはずです。まず、それに気づけるか。気づいたら何ができるか考えるのです。そして考えたら即行動に移すのです。私たちはまだまだやれます。